

蒲生医療センターが 地域の大きな力に!



京都大学特別教授
ほんじよ たすく
本庶 佑先生

東近江市に新しい形のがんセンターができたことに対して、地域の皆さんがどれだけ安心されたかと思えます。

がんが死の宣告ではなく、がんになっても穏やかな生活ができる、そんな時代がくるまで、私自身も皆さんとともに頑張っていきたいと考えています。

このセンターがそんな方向に進める大きな力となることを祈念いたしております。



▲最新医療装置をまじかで見ると
②がん発見に威力を発揮するPET・CT装置
③腫瘍をピンポイントで治療できるリニアック



①完成を祝う (左から) 加藤正人蒲生医療センター院長、相馬俊臣理事長、小椋正清市長、市木徹市議会議長、湊長博京都大学総長、上本伸二滋賀医科大学学長

地域の医療ニーズに応える 蒲生医療センター がん診療棟 オープン

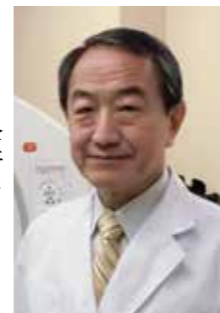


完成を祝う
7月24日、がん診療棟増築工事の竣工式が行われ、関係者らが完成を祝いました。
テープカットの後、小椋市長は、「本日の竣工を契機に、医療圏内でのがん治療の完結率を向上させるとともに、市民の皆さんの期待に応えられる高度かつ安心安全な医療提供に努めていきたい」とがん診療棟への期待を述べました。
続いて、蒲生医療センターの指定管理者である医療法人社団 昂会相馬俊臣理事長は、「最高のドクターと医療機器を備え、この地域で素晴らしい治療がで

安心安全な医療を提供
今回、当センターにがん診療棟を整備したことで、これまで、医療圏内で実施されてきた手術療法や化学療法(抗がん剤治療)に加え、がんの画像診断や放射線治療が可能となりました。
また、遠方への通院が必要な検査や治療が近くで可能になると、患者の負担軽減につながると思っています。
当センターは、市民の健康寿命の延伸と地域の医療ニーズに応えられる安心安全な医療の提供に努めます。

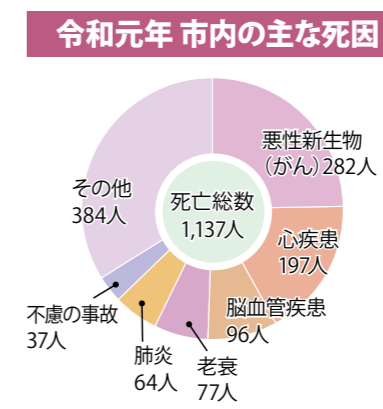
問地域医療政策課
IP 050・5801・5664
0748・24・1052
FAX

がんを発見する
PET診断センターには、放射線診断専門医が着任し、東近江医療圏初となる「PET・CT装置」(写真②)を導入し



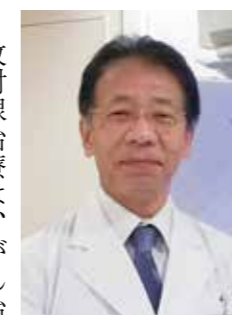
PET診断センター長
はるひ 阪原晴海 医師

蒲生医療センターがん診療棟の開設により、東近江医療圏域でのがん完結率向上を目指します。



がん医療の現状
がんは東近江市内での死因の第1位ですが、東近江市、近江八幡市、日野町、竜王町で構成する東近江医療圏域では、がんの完結率(患者が居住する地域で治療を行える医療体制)が他の疾患と比べて低い現状です。

放射線治療は、がん治療法の一つです。放射線治療センターには、専門の放射線治療医と医学物理士が着任し、「放射線治療装置リニアック」の最新機器(写真③)を導入しました。
このリニアックは、身体の外から放射線を照射することで腫瘍をピンポイントで治療でき、身体への負担が非常に少ないことが特徴です。



放射線治療センター長
たなか 田中正博 医師

がんを治療する
この装置は、PET検査とCT検査を同時にできる装置です。PET検査では、がん細胞をより鮮明に描写することができ、小さながんの早期発見が期待できます。また、CT検査は、高精度に病巣の位置などを判定することができ、がんの可能性が疑われながら、ほかの検査で病巣が発見できない原発不明がんの診断やがんの早期発見、病期診断、転移、再発を調べる有効な検査です。